

## はじめに

看護の現場は、いま大きな転換期を迎えています。超高齢社会の進展、医療と介護の連携、限られた人材や資源で質の高いケアを提供する必要性などの課題に直面するなかで、看護管理者に求められる役割は年々広がり、複雑さを増しています。

かつてのように「人手が足りないから」「先輩がそうしてきたから」という理由で日々をこなすだけでは、もはや運営は成り立ちません。病棟の方針を立て、チームをまとめ、人材を育成し、経営の視点から業務を見直す——これらすべてにかかわるのが、看護管理者という立場です。

本書『看護管理ナースポケットブック』は、そうした現場で奮闘するリーダーや看護主任、看護師長、看護部長といった看護管理者の皆さんに向けて、「日々の仕事で本当に必要な実践知」をコンパクトにまとめたものです。

看護管理のための法律や制度の活用、評価や人材育成、業務分担から災害対策、クレーム対応まで、看護管理者が担うべき役割は多岐にわたります。それらをすべて頭に入れておくのは至難の業です。本書は、そんな多忙な看護管理者の方々が、すぐに現場で使えるよう「ポケットに収まる知識」として、項目ごとに簡潔に整理しました。

日常の業務に活用するのはもちろん、「スタッフがなかなか育たない」「医師や他職種との連携に悩んでいる」「病棟の風土を変えたい」—そんなときにも、本書を開いてみてください。解決のヒントや、考え方の軸が見つかるはずです。本書は、看護管理者のみならず、チームのリーダーや看護主任、副師長等の看護管理の一部を担っているみなさんにもお役に立つ内容になっています。

また、管理者として最も大切なのは、誰よりもまず「自分をマネジメントする力」です。本書の後半では、セルフマネジメントやタイムマネジメント、感情のコントロールといった“管理者自身を支えるスキル”にも焦点をあてています。あなたが自分らしく、心身ともに健康に看護管理の仕事に向き合うこと

が、組織全体の力につながるからです。

看護管理は「孤独でしんどい仕事」と感じることもあるかもしれませんが、それは「人を育て、組織をつくり、未来をつくる」やりがいのある仕事でもあります。この1冊が、皆さんの日々の判断と実践をそっと支える小さな伴走者になれば幸いです。

2025年6月

太田 加世